

これって、しきたりに反するでしょうか？

元旦にドサッと配達されてくる年賀状を、コタツに足を伸ばしながらゆっくりと目を通す——正月の大きな楽しみです。結婚したばかりの若いカップルからは、披露宴か新婚旅行の写真つきの賀状。その翌年には写真にかわいい赤ちゃんが加わっているのが最近の“定番”ですね。旧友からの賀状では「あいつも元気でやっているナ」といった懐かしさも伴ってきます。

でも、毎年、受け取る年賀状の大部分は、印刷されたあいさつだけ。それでも差出人が一筆添えていればまだしも、なかには印刷文だけのものもあります。これだと、仮に 100 通を読み終えるのにも 10 分ほどで終わってしまう。送り主の確認だけのようなものだからです。せっかく、ゆったりとした時なのだから、もう少し時間をかけて読ませてくれるものがあったらいいのではないかと。

そこで私自身は、10 年ほど前から、少々長めの近況報告やエッセイを綴るようにしています。新年早々に長い文言は、古来のしきたりに反するかもしれませんが、心にも時間にもゆとりのある正月には、こちらのメッセージを伝え、また楽しんでいただければ、との思いからなのです。ちなみに、今年の私の年賀状は次のような文言と挿絵でした。

明けましておめでとうございます。

先日、しばらくぶりに床屋さんに行った時のことです。この歳でもう上のほうはかなり薄くなっています。そこで散髪が終わると掛け合ってみたんですね。

「マスター、ご覧のように私の頭は他の人の髪の量の半分ですよ。はげている部分は手をかけなくてもよいし。だから料金も少しは割り引いてくれませんかねえ。」と、そこの主人、なんていったと思いますか？

「旦那さん、そんな無理をおっしゃらないでくださいよ。確かに旦那さんの髪は少ない。ですから、私としては一本たりとも抜いたり傷めたりしてはいけないうえ、大変に気を遣ってハサミを動かしているわけです。逆にこちらの方が割増料金をいただきたいくらいですよ。敵もさるもの、上手をいくもんですかねえ。」

ところで料金は安くならないけれど、「はげあたま」も決して捨てたもんじゃない。「定年後を輝いて生きる」ためには、この「はげあたま」つまり「はつらつ」と「元気に」「明るく」「楽しく」そして「まああるく」生きていくことが大事だと思う次第。自分が明るく輝いていけば周囲も明るくなっていくでしょう。

そんなわけで今年は「はげあたま」でいこう、なんて……。

ご同輩も誇りをもちますます輝いていきましょう。

まもなく 66 歳を迎える「東京のドン・キホーテ」の新年の独り言でした。



2007 年 元旦

この年賀状を投函してから、また思い付きました。「スペースさえあればついでに次のような話も入れたかったなあ」と。

——昔、宴会の席などで歌ったものだった。

・・・ドン ドン パン
パ ドン パンパ ♪
ウチの親父は禿げ頭 隣の親父も禿げ頭 禿げと禿げがけんかして どちらも怪我(毛が)ねえでよかったな・・・

そう、丸い禿げ頭は他人に怪我をさせないし、その反射で社会を明るくするのに貢献(?)しているわけだし……と。

こうして、私はホームページに、これまでの年賀状も年順に載せています。